南一弘の

街を行く

第122回

街が変わる

再び、緊急事態宣言が出てしまいました。

昨年発出された時期を振り返ると、小生は熱海にこもってリモートワーク、人のいない山道を歩くのが日課でした。ちなみに家内はスーパーへ出掛けるより、もっぱらデリバリーで食材調達をしていました。このように淡々と宣言解除を待つ真面目な生活だったのです。

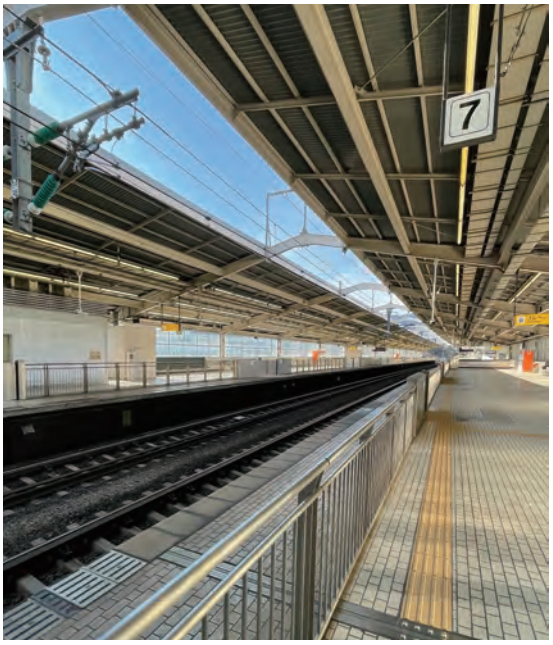
解除後は自粛していた会食を少人数かつ場所を選んで行い、政府の「Go Toトラベル」キャンペーンにも乗っかって小旅行を楽しみました。徐々に活動範囲が広がり、いずれ元の生活へ戻ると高をくくり暢気に構えていたのも事実です。

小生は日頃から多くの企業経営者に会います。用心のためたびたび「抗体検査」を受け陰性判定を頂いています。ある時に信用する主治医から「いま万一感染したら、入院はむずかしい状況」と、話半分でみていたワイドショーのような話をうかがって怖くなりました。早速ランチも含め全会食予定をキャンセル、ゴルフは当面中止、ジムには休会届を出しました。週に三回の水泳を健康維持の秘訣としていたのですが、それが仇とならぬよう決断しました。俗人代表とも言うべき小生がそこまで習慣をガラリ変えたのは、ただ単にコロナへの恐怖だけではありません。この際、モノの見方や考え方を見直そうと一大決心をしたからです。

本連載「街を行く」もそうですが、街の役目はこの先どう変わるか、しっかりと見なければなりません。生活様式の変化はビジネス界隈で「一過性なもの」と言われるようですが、果たして本当にそうでしょうか。小生には何らかの大きな変化が起こると思えてなりません。

今回紹介した写真は、1月7日の昼近い熱海駅の新幹線ホームです。人一人いません。たまたまこの日この時間がそうであったのかもしれませんが、これが現状なのです。確実に皆さんの意識を従来と違うものへと変えています。少し緩みは出てはいますがステイホームは確実に守られています。同じステイホームであれば都会のコンクリートジャングルよりも、のんびり自然に囲まれたいと思うのは当たり前の感覚です。

熱海もおなじみの観光地からテレワークのための居住地へと変わっていくでしょう。実際その方向で人気が出ています。それに伴い、都心から移転する事務所もあるそうです。ビジネスと住居を伴い身近に温泉や観光が楽しめる新しい“マルチタウン”と熱海が呼ばれるのも遠い将来ではありません。テクノロジーで作り上げた街もありますが、逆に自然と人が集まる街もこれから注目されていくでしょう。街は与えられるものではなく、人が集まるから出来上がるものです。これから大きな変革が起きますよね。



都心も郊外も自粛の時期へ逆戻り、都市と社会生活とのギャップが生まれている。

南　一弘

1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。